

先日、新聞に「地球温暖化防止」というタイトルで特集が組まれていました。私たちの毎日の生活ではなかなかわかりにくい温暖化ですが、生きものたちの世界では確実に変化が起こっています。これは生きものたちが私たちにに向けて発している警鐘なのです。

新聞では、東北の桜の開花が早まっているが、南の桜は開花が遅くなっているということや庶民の魚であるマイワシが激減して80年代のほぼ100分の1になり、現状での復活は期待できないとのこと。さらにチョウやセミなどが本来の生息地から北進するにつけ、分布がかなり変化してきているとも言っています。おそらくこれらの例は氷山の一角でしょう。私が知らないだけで、まだまだたくさんの変化が起こっているはずです。

これらの現象は、今までの大量消費や利便性を求める生活のツケの現れでしょう。このツケが恐ろしい勢いで私たちに襲っています。これを少しでも押さえることの必要性や重大性は、日本のみならず海外でも認識されています。国内外を問わず、私たちはこのツケを解消するためにいろいろな知恵を出し合っ、生きものたちの警鐘を真剣に受け止め、取り組まなければならないのです。

しかしながら、これだけ世界的に「地球温暖化防止」のことが叫ばれているのに、その対策は遅々として進んでいないように感じるのは私だけでしょうか。確かに、今までのツケを一朝一夕で解決するには無理があります。それでも本当に私たち一人ひとりが真剣に取り組んでいるのか、未来の地球のことを考えているのか、を改めて見直すべきときが来ているのではないのでしょうか。

そのためには行政が率先して行動を起こすことが必要ではないでしょうか。行政内部でも部署が違えば考え方や取り組み方は違いますが、それでも共通の防止策は講じられるでしょう。通勤時はマイカーを避けたり、アイドリング・ストップを励行したりするなど、環境に対する意識改革も非常に重要になってきていると思います。

また、イベント等でライトアップを行うことが多くなっています。これらも本当に必要なことなのでしょう。ライトアップは植物にとっては非常に迷惑なことですし、電力消費のことを考えると、とても浮かれてばかりはいられない状況だと思います。

まずは自分の足下や周りを見直すことから始めてみませんか。自分からやらなければ誰もついてきてはくれません。そしてそれが大きな輪になり、継続していくことができるようになれば、それにこしたことはありません。私たちの遅々とした努力も近い将来大きな成果となるように、日々取り組んでいきたいと思っています。

財団のひとりとごと  
h i t o r i g o t o

## もっと真剣に地球温暖化防止を！



寄付金をありがとうございました

チャリティライブ (MLB presents 琵琶湖チャリティ『Lake Ska DraG』) の主催者 (代表 西木真也様) から、7月11日にご寄付をいただきました。